（昭和20年１月15日第三種郵便物認可）

since 1920

運輸新聞

E-mail inquiry@unyu.co.jp URL http://www.unyu.co.jp

発行所・運輸新聞株式会社
東京都荒川区西日暮里3-6-10
佐々木ビル3F 〒116-0013
TEL03-5685-0035
関西支社 大阪市中央区瓦町1-3-2
〒541-0048 TEL06-6209-3261
発行人・野口香織
火・金 発行（祝日を除く）
3,600円／月（送料・税込）

2020年
11月17日（火）
第17349号

倉庫・物流センターのスマートリース
COYO
幸洋コーポレーション

SIP スマート物流サービス

実装に向けPF連携も大切

プラットフォーム

2018～22年度の5カ年計画で内閣府が進めているSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の1つ「スマート物流サービス」。その姿が明らかになってきた。田中従雅プログラムディレクター（PD）は、物流・商流データ基盤について、「プラットフォームは複数あって良い。それぞれが連携することが大切」との認識を示している。

田中 従雅 氏

スマート物流サービスは、サプライチェーンの上流から下流までをつなぐ高度なデータ連携により、全体最適化や新たな付加価値を創造することを目指している。

研究開発項目は「物流・商流データ基盤の構築」と「自動データ収集技術の開発」の2つ。

スマート物流サービス管理法人である港湾空港技術研究所主催によるシンポジウムが6日に開催され、物流・商流データ基盤の構築について、田中PD（ヤマトホールディングス執行役員）は、「個社だけでは達成不可能な領域、具体的には共同配送、共同倉庫、AI・予測最適化、無人化を実現するため、一気通貫でデータを見える化することが目指す姿」だと述べた。

現在、フェーズ1（～21年度）「要素基礎技術の開発」の段階にあり、アクセス権限コントロール技術、非改ざん性担保技術、個別管理データ抽出・変換技術、入出力高速処理、他プラットフォーム連携技術の開発を進め、並行して日用消費財など4つのモデルを対象に研究開発している。4つのモデルは、「基盤技術がない中でも取り組みたい」（田中PD）としている。

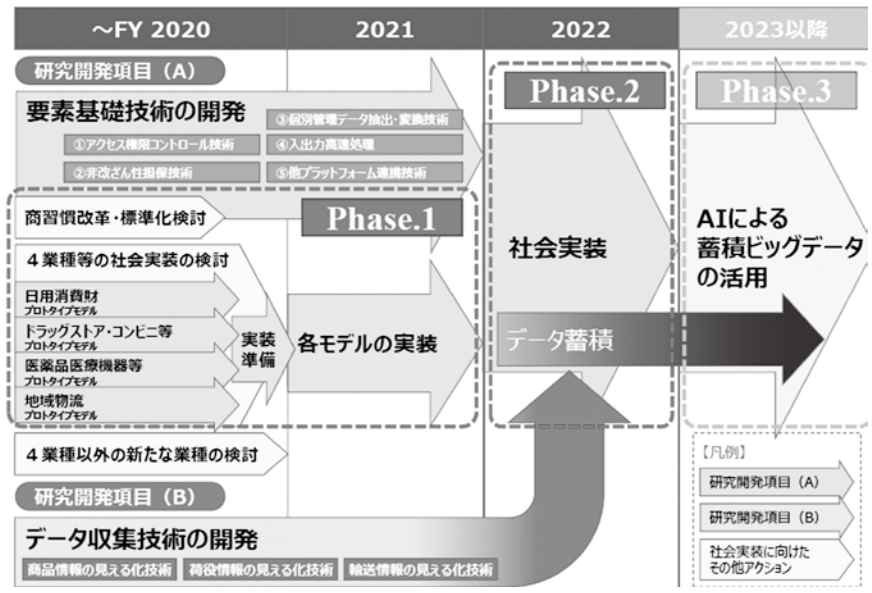
要素基礎技術を開発する上での課題の1つに、荷送り人コードなど同業他社に見せたくない情報データの公開が挙げられるが、これ以外にもデータの信頼性、データ変換、大量データの高速処理、プラットフォーム連携など、解決すべき課題は多い。中でも、田中PDは「標準化でなく変換技術が大事」だと説明。また、プラットフォーム連携は「連携先の性能にレスポンスが影響される懸念がある」ことを課題に挙げた。

なお、4つのモデルのテーマと研究主体は、「日用消費財」および「ドラッグストア・コンビニ」が流通経済研究所、「医薬品医療機器」が日通総合研究所、「地域物流」がセイノー情報サービス。今後、順次研究成果を公表する予定。

22年度に、「物流・領収データ連携基盤」と「データ収集技術の開発」（商品情報・荷役情報・輸送情報の見える化技術）を合わせ社会実装するとともに、同時に参加者を増やすことによりデータを蓄積していく。

23年度以降大学やベンチャーなどにも開放する。

研究開発のプロセス



データ収集技術 開発状況を報告

電子タグ高度化など

スマート物流サービスシンポジウムでは、自動データ収集技術開発の成果発表（状況報告）が行われた。

Automagiは、スマホで非定形梱包も含む高度な荷物サイズ計測を可能にし、物流現場でのデータ収集を省力化した。

佐川JVは、高精度な画像認識や把持による自動荷降ろし技術を開発し、同時に荷物・商品情報を取得、検品レスを実現した。

日本パレットレンタルは、市販カメラをフォークリフトに搭載し、商品に添付されたQRコードを読み取って、作業の省力化・トレーサビリティに寄与できたという。

グローリーは、物流車両・荷役状態を画像認識し、効率的なバース運用を支援した。ロジクエストは、積載量把握システムの開発により、企業専属便と急便の組み合わせ配送を実現。

東レは、半導体カーボンナノチューブを用いた自動認識タグを開発、複数のタグを一括で読み取れる機能を確認できた。山形大は、薄型軽量電子タグを開発、データ目視も可能にした。東京都市大は、棚の上に配置された商品の電子タグ情報を読み取る廉価な棚アンテナを開発し、物流・在庫管理効率を改善したことなどを挙げた

NACCSセンター 貿易手続より迅速に

トレードワルツと連携覚書

服部氏㊧と小島氏が覚書を締結

輸出入・港湾関連情報処理センター（NACCSセンター）は、NTTデータなど7社が出資して今年4月に設立された国際物流・国際貿易業務のデジタル化・ペーパーレス化を検討し、将来はシステムの相互連携を視野に入れる。

トレードワルツは、ブロックチェーン技術を活用した貿易情報連携プラットフォーム「TradeWaltz」を運営。来年3月の商用開始を目指している。

NACCSセンターの服部剛社長は、「2025年からの第7次NACCSの基本仕様を今年3月に策定し、国内外の情報基盤との連携を研究してきた。内閣官房と国土交通省による港湾関連データ連携基盤（サイバーポート）とは12月からアイル連携を開始する予定だが、トレードワルツのサービス内容が明らかになる中で、多くの上流情報をNACCSで入手できるなど、お互いの利用促進が見えてきた。連携することで、よりスピーディな貿易手続きが実現する。2025年の更改が目安となるが、これを待つことなく（実現に向け）進めていきたい」と述べた。

トレードワルツと相互に連携・協力していくことで合意し、12日に覚書を締結した。

トレードワルツの小島裕久社長は、「来年3月に輸出機能からリリースを開始するが、既に80社から問い合わせがある。現在、自動車・食品・鉄鋼・金属・化学品について商社や荷主が参加しケーススタディを進めており、これを横展開していく。今回の連携により、貿易業務の課題を抜本的に解決していきたい」と説明した。

JR貨物 営業損失13億円に

JR貨物の2021年3月期連結中間決算は、営業収益891億円（前年同期比8・3％減）、営業損失13億円（前年同期は62億円のプラス）、経常損失18億円（同59億円）。新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷、令和2年7月豪雨、台風10号などの影響を受け、単体の運輸収入および子会社の利用運送事業収入が減少し、減収減益になった。

単体の営業収益は、711億円（同9・2％減）、営業損失21億円（前年同期は53億円のプラス）、経常損失27億円（同47億円）。

うち鉄道ロジスティクス事業は、営業収益791億円（同8・4％減）、営業損失65億円（前年同期9億円のプラス）と、減収減益に。

不動産事業は、営業収益99億円（同9・0％減）、営業利益は50億円（同4・2％減）と、単体の分譲マンション収入の反動減やテナントからの賃貸収入減で減収減益となった。

品目別の輸送実績は、コンテナではエコ関連物質を除き全品目で前年同期比マイナスになったが、積合せ貨物はEコマースなどが増えてこそ数カ月はプラス化している。車扱は石油が外出自粛の影響を受けて減少している。

2021年3月期の通期業績見通しは、現時点で新型コロナウイルス感染症の収束見通しが立たず経済に与える影響が不透明なため未定とした。

当期損失65億円
日本郵便

日本郵便の2021年3月期中間決算は、売上高1兆8456億円（前年同期比1・3％減）、営業利益180億円（同68・2％減）、経常利益155億円（同69・9％減）、当期利益64億円（77・1％減）。

国際物流事業（トールJPトールロジスティクス、トールエクスプレスジャパンの合計）は、エクスプレス事業が新型コロナや標的型サイバー攻撃の影響があった一方、ロジスティクス事業はアジア部門で感染予防対策物資の大口取り扱いが継続したことにより50億9800豪ドル（3736億円、同20・6％増）、営業利益（EBIT）は8400豪ドル（61億円）の赤字となった。

通期業績予想は、経常利益400億円、当期利益ゼロ。

増加に伴うEC利用拡大により、取扱量は21・0％増加したが、郵便取扱数量の減少や国際郵便物の引受停止の影響が響き、売上高9627億円（同2・8％減）、営業利益は65億円の損失（同384億円）。

郵便・物流事業は、ゆうパックは巣ごもり消費

螢

大統領選の混乱がいまだにおさまらない状態のアメリカ。国の分断が懸念されているが、日本でもコロナの影響で、いくつかに分断されているように感じる◆それぞれの立場によって、コロナの影響はさまざまであることが、他社を思いやることを困難にさせている。筆者は健康上の理由で、また高齢の家族もいるため、2月以降、外食や会食を控え、ひとりの時以外は常にマスクをしている。正直、マスクをしていない人と近くで会話するのは恐怖を感じるが、中には体質でマスクができない人もいて、同じ立場でなければ、理解するのは難しいこともある。国内の陽性者が過去最高を更新する中、人々が不安な日々を送っていても、医療従事者に負担を押しつけ、国民に責任を押しつけるだけのこの国で生きていくには、各々が想像力を働かせることが大切だと思う。自分や家族に持病のある人や高齢者がいなくても、自分の大切な人のその先に該当する人がいるかもしれない。そう思って気を付けることで、ぎすぎすした人間関係が変わるかもしれない。かくいう筆者も他者を理解し尊重できているかと言うと自信がない。ただ、努力は続けたい。コロナがおさまった時に、元気で皆と振り返ることができるように。 Z（20・11・17）